

科目ナンバリング		U-LAS03 10007 SB48							
授業科目名 <英訳>		外国文献講読（法・英）II-E1 Readings in Humanities and Social Sciences (Law, English)II-E1				担当者所属 職名・氏名		法学研究科 講師 石原 佳代子	
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)		外国文献研究		使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2024・後期		曜時限	水1		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>この授業は、憲法学にかかわる英語の専門文献を精読することにより、そこでの議論に関する基礎的知識を身につけるとともに、英文の内容を理解したうえで正確に日本語へと翻訳する能力を養うことを目的とするものである。</p> <p>具体的には、アメリカにおける民主主義と選挙制度設計の仕組みについて取り上げた英語文献を輪読する。</p> <p>授業内では、訳文担当者が事前に割り当てられた箇所についての訳文を提出し、それに対して教員がコメントや補足を行うとともに、訳文担当者も含めた受講生全体で、内容や訳語に関する質疑応答や議論を行う。</p> <p>翻訳にあたっては、ただ英語を日本語へと逐語的に移し替えるのではなく、文献の内容を自分の頭で整理・把握したうえで、どのような日本語を当てるべきか、吟味したうえで翻訳することが望まれる。</p>									
【到達目標】									
<ul style="list-style-type: none">・専門的な英語文献を正確に理解しつつ、その内容を自分なりによく整理したうえで適切な日本語を用いて表現できるようにすること。・アメリカの民主主義と選挙制度設計をめぐる問題について理解し、考察できるようにすること。									
【授業計画と内容】									
<p>Samuel Issacharoff他による、The Law of Democracy Legal Structure of the Political Process 6th editionの中から1，2章を選んで精読する。</p> <p>具体的にどの章を講読するかについては、受講生の人数、習熟度等を考慮し、授業開始時に決定する。</p> <p>前期と同じ文献であるが、前期とは異なる箇所を講読するため、後期のみの受講であっても全く問題はない。</p> <p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>授業についてのガイダンス、指定文献についての説明ののち、訳文の割り当てを行う。</p> <p>第2回-第14回</p> <p>訳文担当者が事前に提出した訳文を基礎に、指定文献の講読を進める。教員の側で添削や説明を行うほか、訳文担当者を含めた受講生全体で、内容に関する疑問点や訳語の適切さについて議論を行う。</p> <p>期末試験</p> <p>第15回 フィードバック（具体的方法は別途指示する）</p>									
						外国文献講読（法・英）II-E1(2)へ続く			

外国文献講読（法・英）II-E1(2)

【履修要件】

外国文献講読（法・英）は専門への導入コースなので二回生以上を対象とする。

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（授業への参加状況、提出された訳文の内容や授業内での発言、質問への応答：30%）と期末試験（筆記：70%）にて評価する。

提出された訳文の内容を評価するにあたっては、原文を正確に理解したうえで、適切な日本語に翻訳されているかを一義的な評価基準とするが、全てを完璧に理解した上での訳文作成を求めるわけではない。訳文作成中に生じた疑問点や分からなかった点などがある場合、これらを整理・明示することは積極的に評価する。

期末試験においては、翻訳問題と内容理解問題を出題する。

以下の場合、自動的に単位を認定しない。

- ・ やむを得ない理由なく、5回以上欠席した場合
- ・ やむを得ない理由なく、訳文を提出しなかった場合
- ・ 期末試験の内容理解問題について0点であった場合

詳細については、授業内で説明する。

【教科書】

Samuel Issacharoff et al. 『The Law of Democracy: Legal Structure of the Political Process, 6th edition 』（West Academic Press, 2022）ISBN:978-1684677900

講読箇所についてはコピーを配布するため、受講生の側で準備をする必要はない。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習としては、自身が訳文を担当しない回についても、講読予定箇所と提出された訳文を事前に確認し、疑問点やコメントを考えておくこと。

復習としては、講読した箇所の内容について、自分なりに整理し、説明できるようになっておくこと。

少なくとも期末試験の前には一通り授業内で講読した箇所を読み直し、翻訳のポイントや内容面の理解について確認しておくこと。このような復習をせず、期末試験に臨んだ場合、およそ単位を取得できるレベルに達することはない点、注意すること。

【その他（オフィスアワー等）】

この科目は法学部生を対象に開講される科目です。履修人数に余裕があれば、法学部以外の学生も履修することが可能ですが、法学部事務室で事前申込が必要です。詳細は履修（人数）制限に関するお知らせで確認してください。